

mamacha music column

最終回

Najki's Eye

vol.6 HY



NAIKI AKIRA
内記 章

1953年 東京生まれ。音楽ジャーナリスト。小学1年の時、父親の転勤で札幌へ。札幌北高、日大卒業後音楽プロダクションを経て1976年より、札幌で音楽業界紙の記者となる。1982年、オリコン入社、札幌支局長勤務の後、2001年より東京本社勤務。広報企画部長、執行役員兼任の後、2005年同社を退社。2006年札幌でオフィス・ナイキを設立。音楽ジャーナリストとして、新聞、雑誌連載を始め、テレビ、ラジオへのレギュラー出演や、音楽専門学校の講師のほか、オーディション、コンテスト等の審査員、各種コーディネートやプロモーション等で幅広く活躍中。

(オフィスナイキ ホームページ)
<http://office-naiki.com/>



『北の音楽戦士たち』
(中西出版)

北の「音楽業界」今、昔と北の音楽戦士たち27人。豊かな土壌で育った北の音楽事情とは。

今月の一枚



「LIFE」

HY

ユニバーサルミュージック

2015年7月15日発売

今年結成15周年を迎えるHYが7月15日にリリースした11枚目のアルバム「LIFE」。夏、海、沖縄、と散りばめられた言葉からも気分が盛り上がる。パーティーシーンにうつてつけのアップテンポが目を白押し、夏の幕開けにぴったりの一枚だった。その夏もそろそろ盛りをすぎ、季節は移ろう準備を始める頃となったが、アルバムの中の曲がまた耳に残つてはならない。

HYと言えば男性4人女性1人のミクスチャーバンドだが、メンバーの誰かが詞を書けるし曲を書ける。ボーカルも、新里英之や仲宗根泉がそれぞれリードを取れる、そういう意味では非常に多彩で楽しめるバンドでもある。これまでは主にラブソングを歌ってきたが、今回の「LIFE」にはそれぞれの曲に色々なストーリーが伺えた。なかでも仲宗根の「愛しあつて許しあつて」

というバラードは、ラブソングというよりも慈愛とか人類愛のようなものを感じさせる。壮大なスケールの包容力に富んだ曲である。これは仲宗根自身が母になったというくとも少なからず影響しているのかもしれないが、じつと聞いていると包み込まれ、癒される温かさに満ちている。教わった愛をどう伝えていくかということの答えがこの曲だ。

また、ラストに収録されている「スマイル」は、2年前に独立した自分たちの経験から、勇気を持って一歩を踏み出すことの大切さを教えてくれる。あきらめずに頑張つて行こう、笑顔の裏にある努力はきつと報われる。夏の喧騒が過ぎ去った後、かみしめるようにもう一度このアルバムを聴いていると、そんなメッセージと大きな愛に育まれているのを感じられる。